

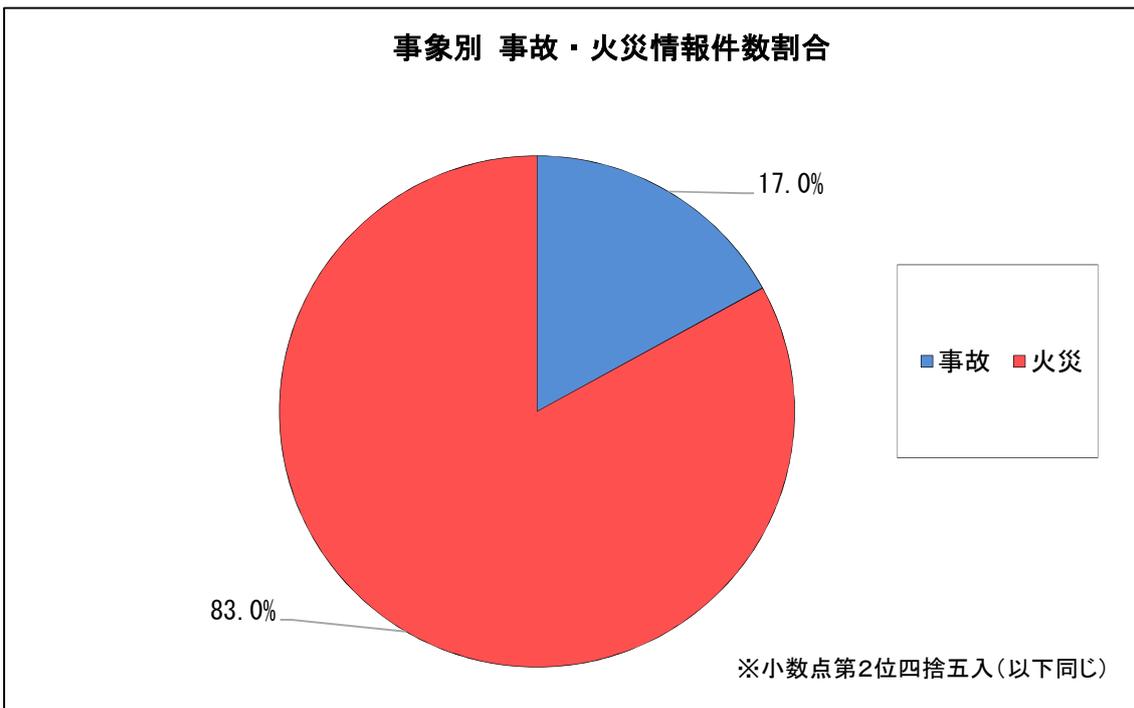
令和元年事故・火災情報の統計結果について

令和元年に自動車製作者等から報告があり、国土交通省のホームページにて公表している自動車の事故・火災情報について、統計的にとりまとめたので公表します。なお、統計結果は自動車製作者等からの情報によるもので、国土交通省としてその内容のすべてを確認しているものではありません。

(重大な事故・火災情報は随時更新、その他の事故・火災情報は四半期毎の更新)

<http://www.mlit.go.jp/jidosha/carinf/rci/cgi-bin/search.cgi>

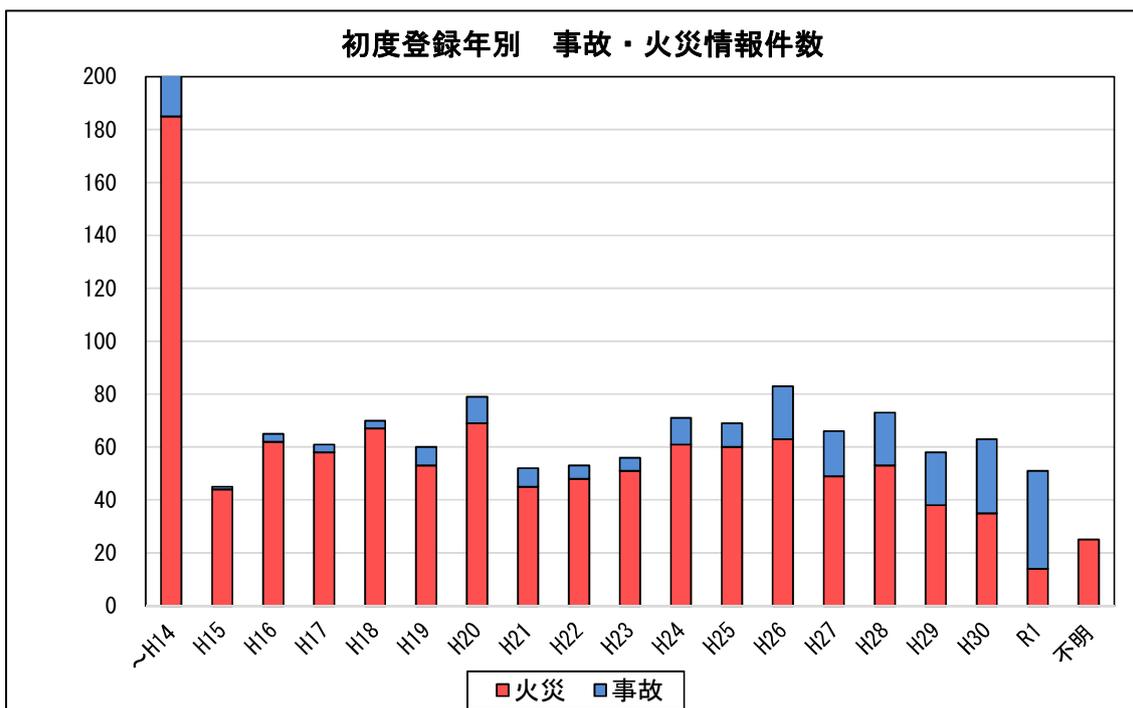
1. 事故・火災情報の総件数は 1,301 件であり、昨年と比べて 129 件減少した。内訳としては、事故 221 件(17.0%)、火災 1,080 件(83.0%)であり、火災情報が全体の多くを占めている。なお、昨年と比べると、事故が 48 件減少し、火災が 81 件減少している。



(件)

年別 \ 事象別	事故	火災	合計
令和元年	221	1,080	1,301
平成30年	269	1,161	1,430

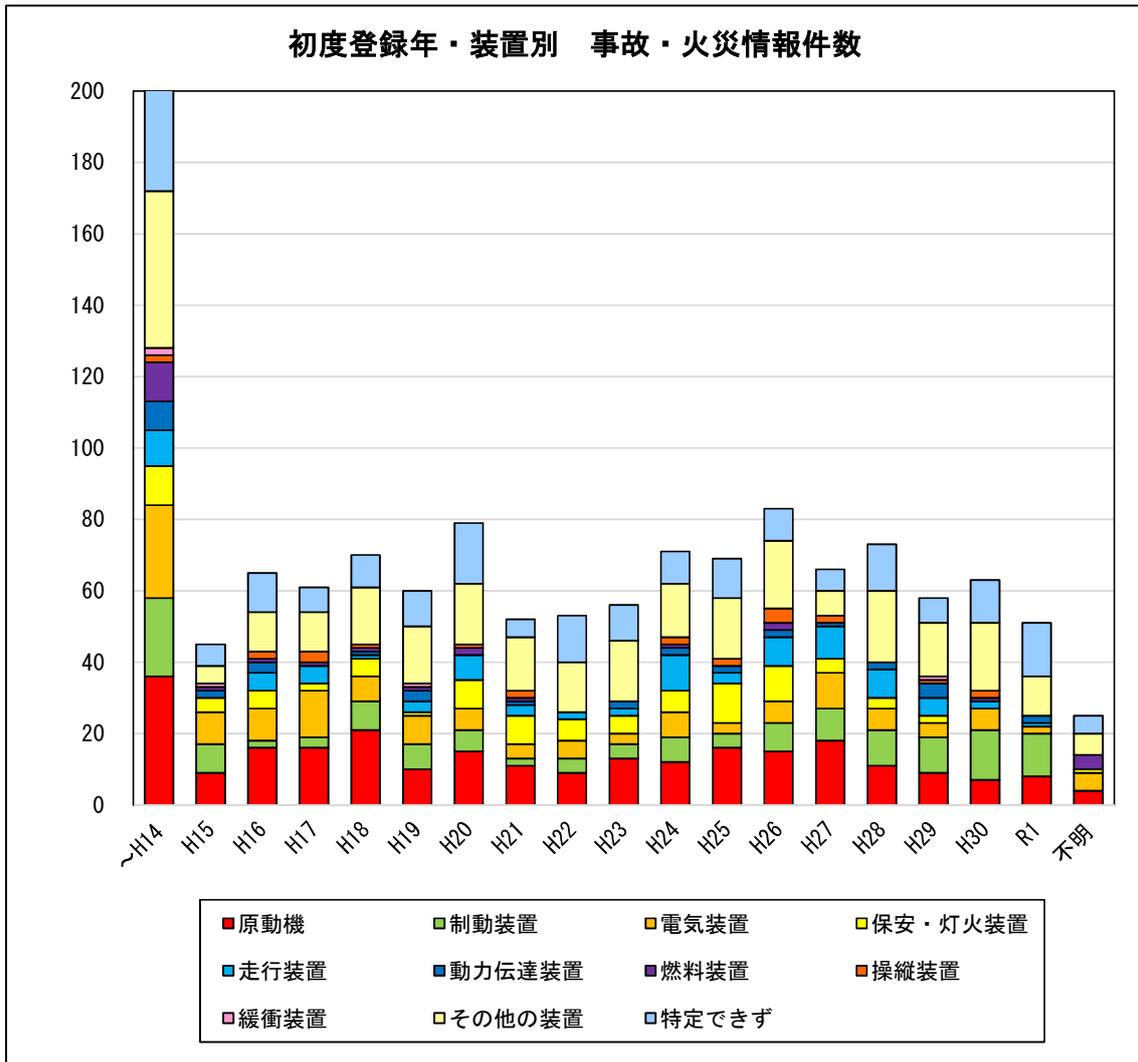
2. 初度登録年別（軽自動車にあっては初度検査年別。以下同じ。）事故・火災情報件数は、平成26年初度登録車両における事故・火災件数が83件と最も多くなっている。事象別にみると、事故件数は令和元年初度登録車両が37件と最も多く、火災件数は平成20年初度登録車両が69件と最も多くなっている。次に、初度登録年別における装置別の事故・火災情報件数は、平成28年初度登録車両以前では原動機が全装置の中で最も多くを占めていたが、平成29年初度登録車両以降では制動装置が最も多くなっている。また、初度登録年別・原因別の事故・火災情報件数は、原因が特定できたものの中で、点検・整備に起因するものが最も多く、次いで外部要因、社外品・後付け装置によるものが多くなっている。



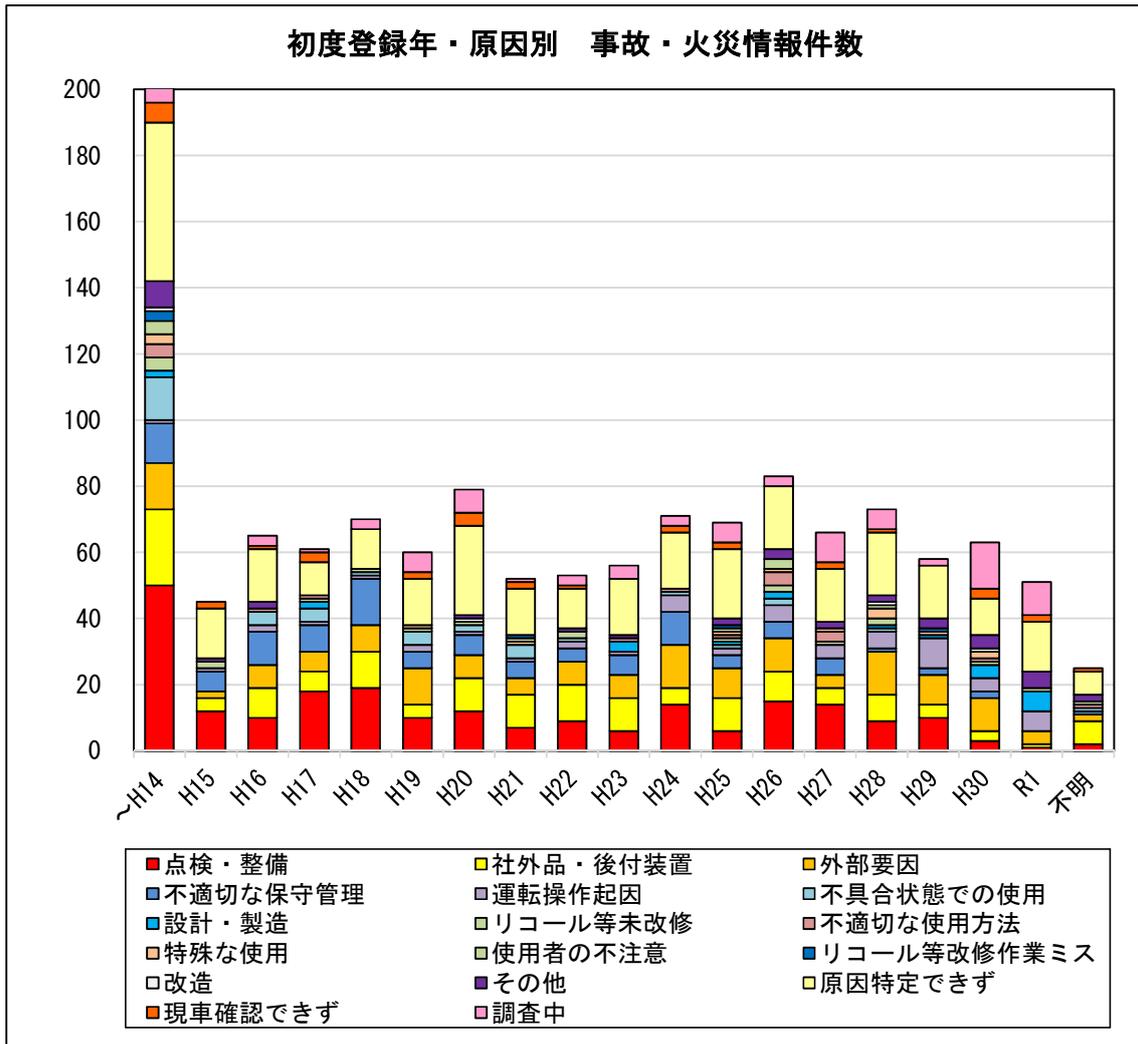
(件)

初度登録年別	~H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	不明	合計
事故	16	1	3	3	3	7	10	7	5	5	10	9	20	17	20	20	28	37	0	221
火災	185	44	62	58	67	53	69	45	48	51	61	60	63	49	53	38	35	14	25	1,080
合計	201	45	65	61	70	60	79	52	53	56	71	69	83	66	73	58	63	51	25	1,301

2-A. 初度登録年・装置別 事故・火災情報件数



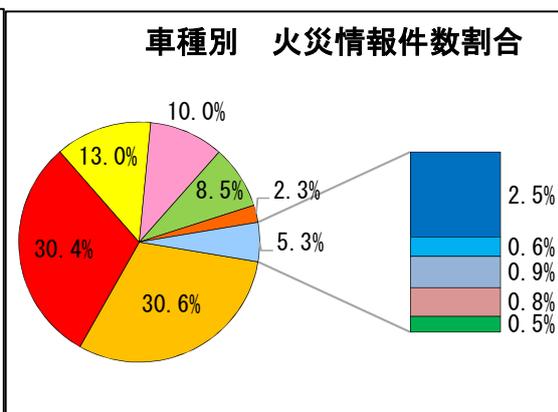
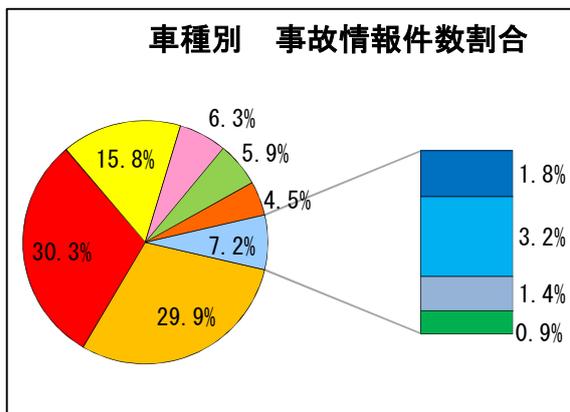
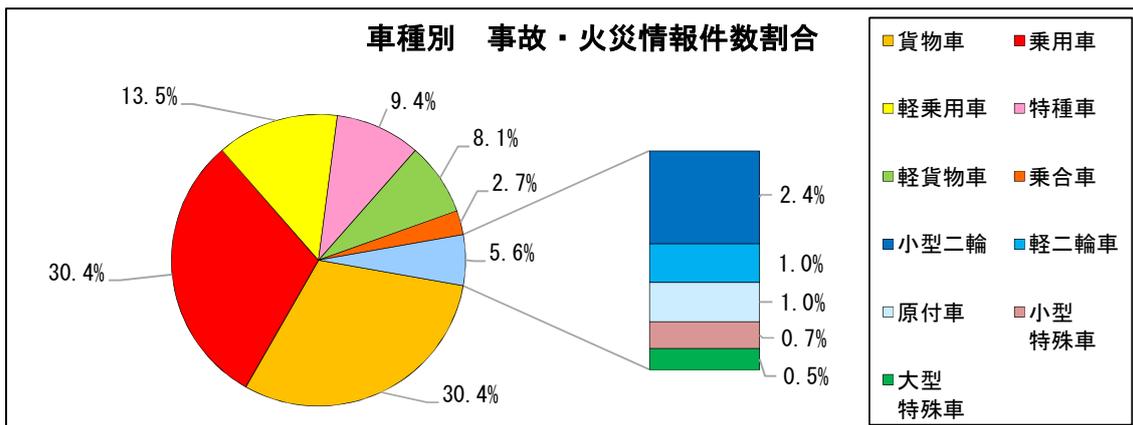
2-B. 初度登録年・原因別 事故・火災情報件数



(件)

初度登録年別	~H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	不明	合計
点検・整備	50	12	10	18	19	10	12	7	9	6	14	6	15	14	9	10	3	1	2	227
社外品・後付装置	23	4	9	6	11	4	10	10	11	10	5	10	9	5	8	4	3	1	7	150
外部要因	14	2	7	6	8	11	7	5	7	7	13	9	10	4	13	9	10	4	2	148
不適切な保守管理	12	6	10	8	14	5	6	5	4	6	10	4	5	5	1	2	2	0	1	106
運転操作起因	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	5	2	5	4	5	9	4	6	0	53
不具合状態での使用	13	0	4	4	1	4	2	4	1	0	1	1	2	0	1	0	0	0	1	39
設計・製造	2	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	1	2	0	1	1	4	6	0	22
リコール等未改修	4	2	0	1	1	1	0	0	2	0	0	1	2	1	2	0	1	0	0	18
不適切な使用方法	4	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	4	3	0	0	1	0	1	18
特殊な使用	3	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	1	3	1	2	0	0	14
使用者の不注意	4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3	0	1	0	0	1	1	13
リコール等改修作業ミス	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	6
改造	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4
その他	8	1	2	0	0	0	1	0	1	1	0	2	3	2	2	3	4	5	2	37
原因特定できず	48	15	16	10	12	14	27	14	12	17	17	21	19	16	19	16	11	15	7	326
現車確認できず	6	2	1	3	0	2	4	2	1	0	2	2	0	2	1	0	3	2	1	34
調査中	5	0	3	1	3	6	7	1	3	4	3	6	3	9	6	2	14	10	0	86
合計	201	45	65	61	70	60	79	52	53	56	71	69	83	66	73	58	63	51	25	1,301

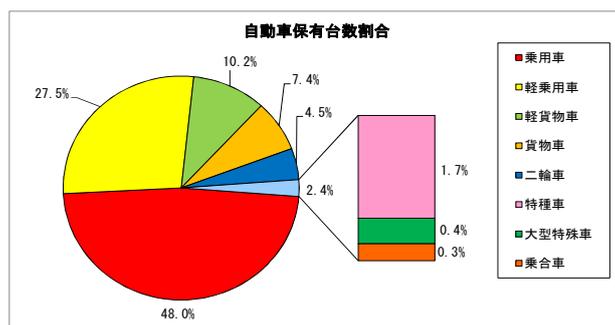
3. 車種別事故・火災情報件数及び割合は、貨物車が396件(30.4%)と最も多く、次いで乗用車が395件(30.4%)となっている。事象別にみると、事故情報件数については、乗用車が67件(30.3%)と最も多く、次いで貨物車が66件(29.9%)となっており、火災情報件数については、貨物車が330件(30.6%)と最も多く、次いで乗用車が328件(30.4%)となっている。令和元年11月末現在における乗用車の保有台数(39,569千台)は全保有台数(82,444千台)の48.0%であり、乗用車の事故・火災情報件数は乗用車の普及状況が反映されているものと考えられる。さらに、貨物車は保有台数6,108千台(7.4%)に対して事故・火災情報件数の割合は30.4%と高く、逆に軽乗用車は保有台数22,670千台(27.5%)に対して事故・火災情報件数の割合は13.5%と低くなっている。



(件)

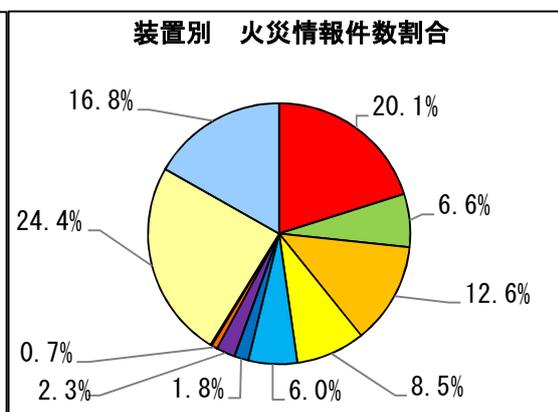
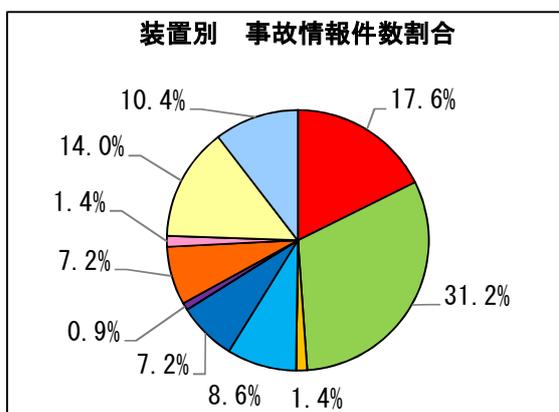
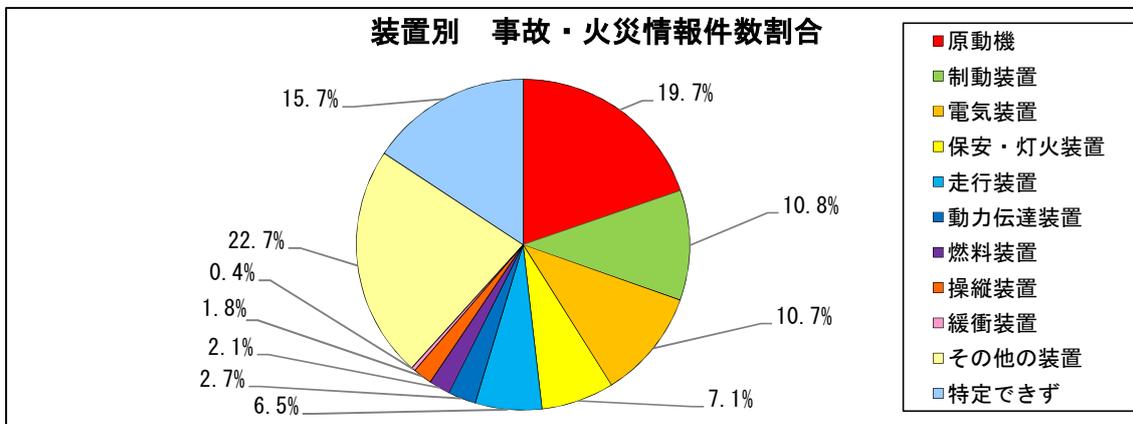
車種別 事象別	貨物車	乗用車	軽乗用車	特種車	軽貨物車	乗合車	小型二輪	軽二輪車	原付車	小型特殊	大型特殊	合計
事故	66	67	35	14	13	10	4	7	3	0	2	221
火災	330	328	140	108	92	25	27	6	10	9	5	1,080
合計	396	395	175	122	105	35	31	13	13	9	7	1,301

(参考) 自動車保有台数割合



注: 自動車保有台数は、令和元年11月末現在における(一財)自動車検査登録情報協会の集計数字(小型特殊自動車及び原動機付自転車を除く。)から算出した。

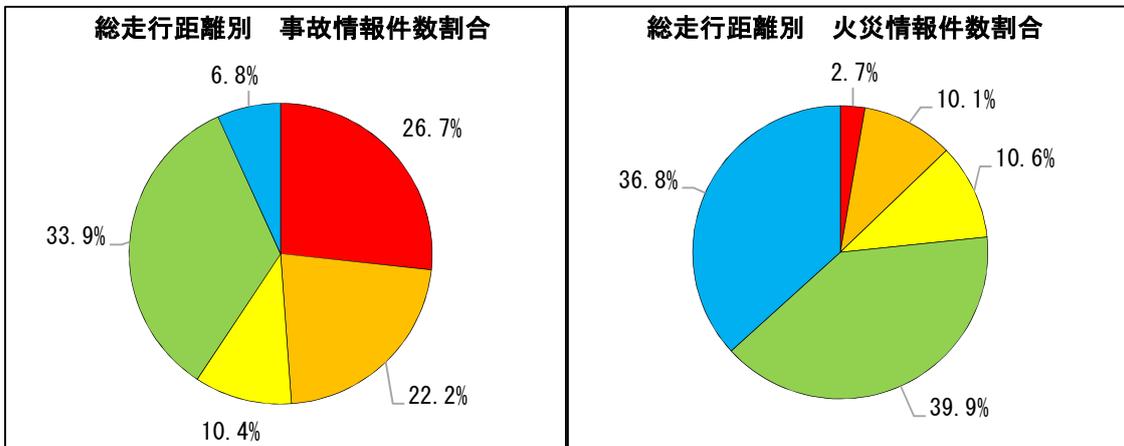
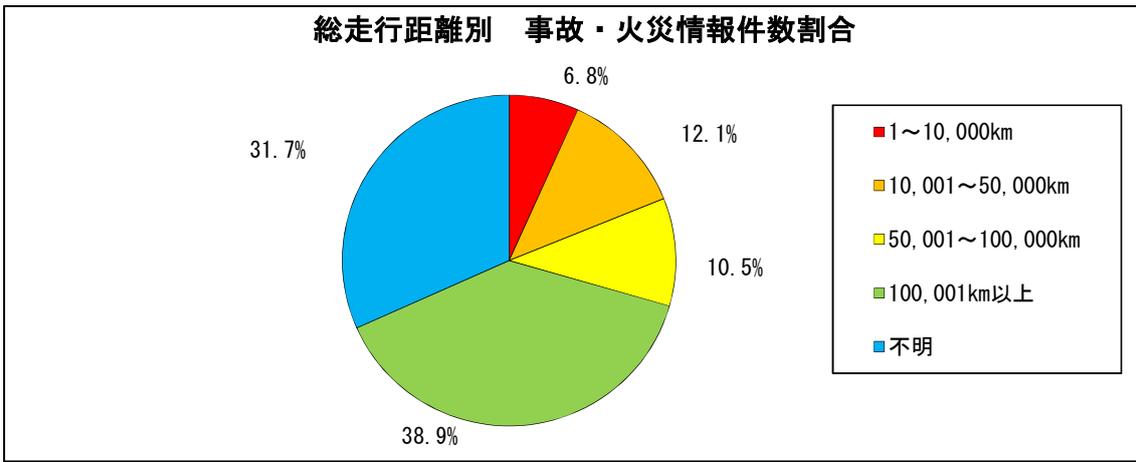
4. 装置別事故・火災情報件数及び割合は、原動機が256件(19.7%)と最も多く、次いで制動装置が140件(10.8%)、電気装置が139件(10.7%)の順となっている。事象別にみると、事故情報件数については、制動装置が69件(31.2%)と最も多く、次いで原動機が39件(17.6%)、走行装置が19件(8.6%)の順となっており、火災情報件数については、原動機が217件(20.1%)と最も多く、電気装置が136件(12.6%)、保安・灯火装置が92件(8.5%)の順となっている。



(件)

装置別 事象別	原動機	制動装置	電気装置	保安・ 灯火装置	走行装置	動力伝達 装置	燃料装置	操縦装置	緩衝装置	その他の 装置	特定 できず	合計
事故	39	69	3	0	19	16	2	16	3	31	23	221
火災	217	71	136	92	65	19	25	8	2	264	181	1,080
合計	256	140	139	92	84	35	27	24	5	295	204	1,301

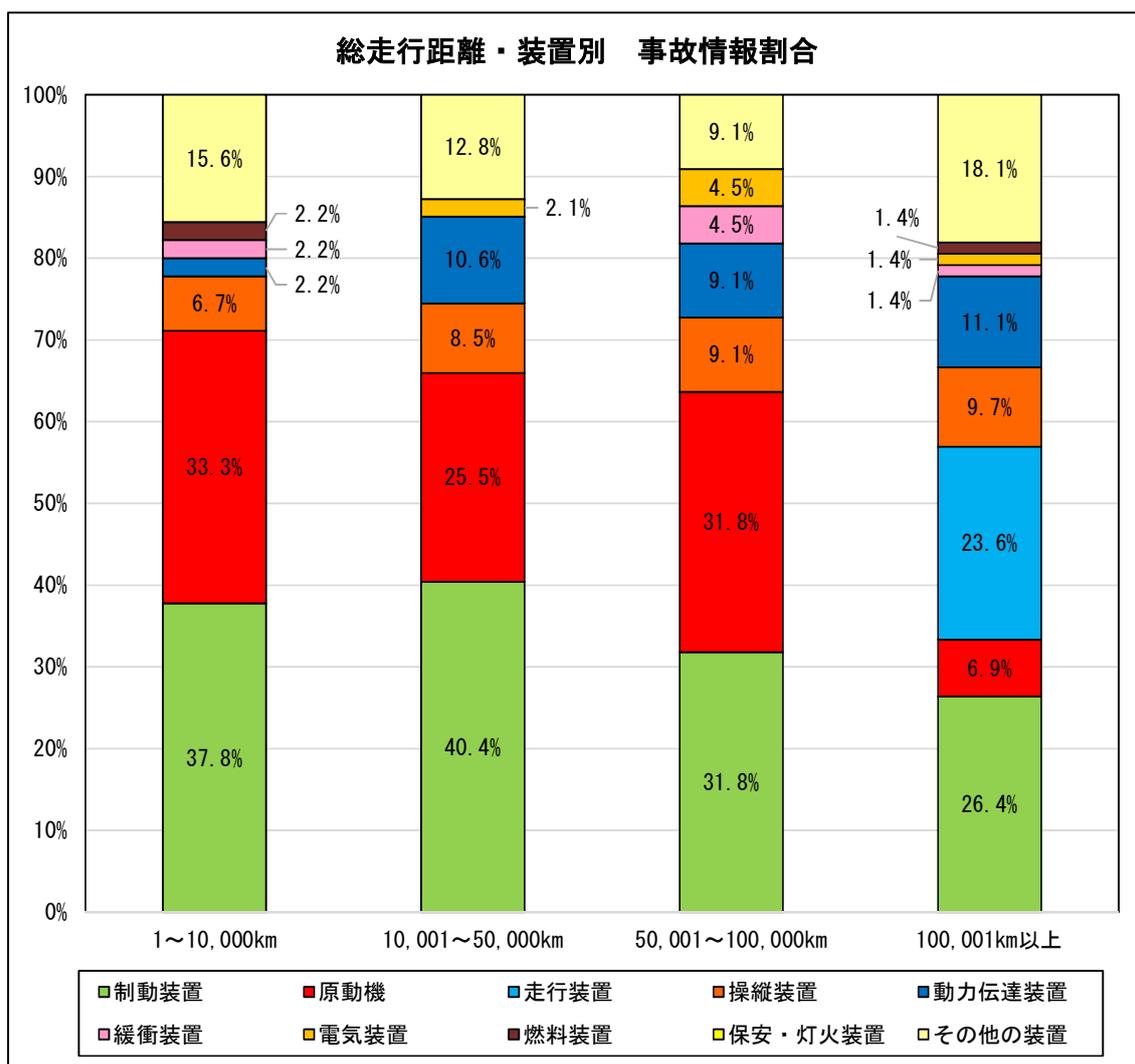
5. 総走行距離別事故・火災情報件数及び割合は、10万km超が506件で(38.9%)と最も多く、次いで1万km超5万km以下が158件(12.1%)、5万km超10万km以下が137件(10.5%)の順となっている。事象別にみると、事故情報件数は、走行距離による傾向性はみられず、火災情報件数は、総走行距離5万km超が545件と全体の約50%を占めている。このことから、事故情報は総走行距離との関係性はみられないが、火災情報は総走行距離が増えるにつれ増加傾向にある。次に、総走行距離別・装置別事故・火災情報件数を事象別にみると、事故情報件数割合は総走行距離に関わらず制動装置が高くなっており、火災情報件数割合では走行距離が増えるにつれて原動機の割合が高くなっている。さらに、10万kmを超えた車両については、事故情報件数割合では走行装置が、火災情報件数割合では走行装置及び制動装置も高くなる傾向がある。



(件)

事象別	1~10,000km	10,001~50,000km	50,001~100,000km	100,001km以上	不明	合計
事故	59	49	23	75	15	221
火災	29	109	114	431	397	1,080
合計	88	158	137	506	412	1,301

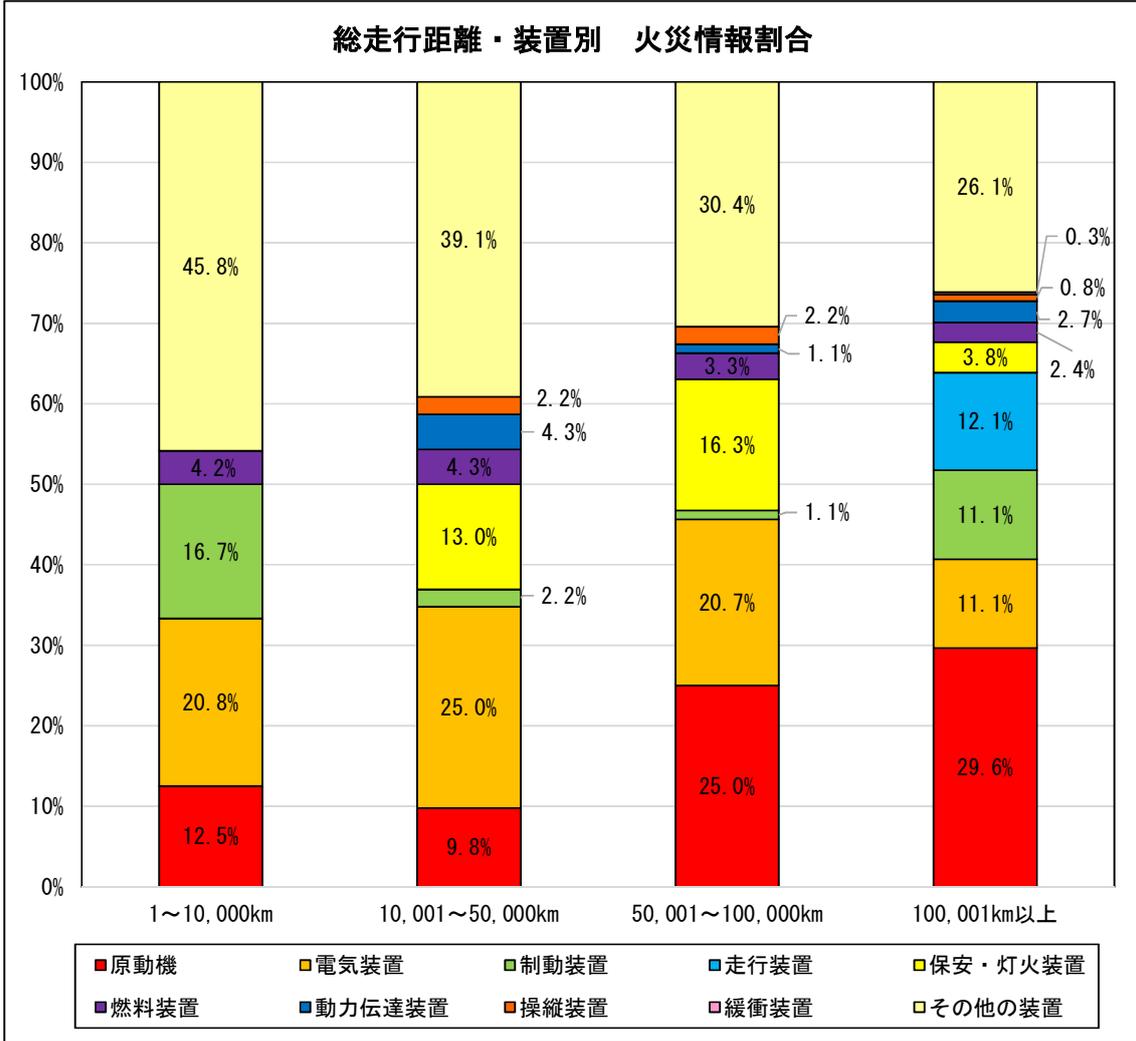
5-A. 総走行距離・装置別 事故情報件数



(件)(%)

総走行距離別 装置別	1~10,000km		10,001~50,000km		50,001~100,000km		100,001km以上	
制動装置	17	37.8%	19	40.4%	7	31.8%	19	26.4%
原動機	15	33.3%	12	25.5%	7	31.8%	5	6.9%
走行装置	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	17	23.6%
操縦装置	3	6.7%	4	8.5%	2	9.1%	7	9.7%
動力伝達装置	1	2.2%	5	10.6%	2	9.1%	8	11.1%
緩衝装置	1	2.2%	0	0.0%	1	4.5%	1	1.4%
電気装置	0	0.0%	1	2.1%	1	4.5%	1	1.4%
燃料装置	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
保安・灯火装置	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他の装置	7	15.6%	6	12.8%	2	9.1%	13	18.1%
合計	45	100.0%	47	100.0%	22	100.0%	72	100.0%

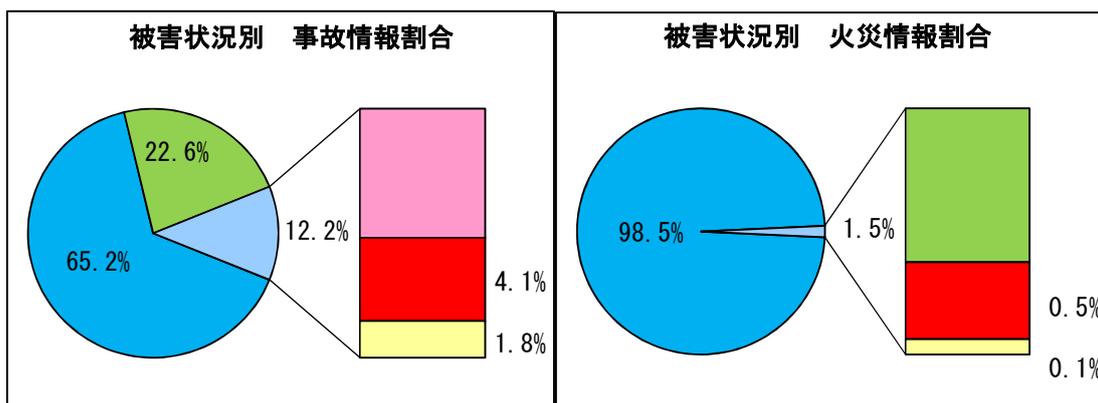
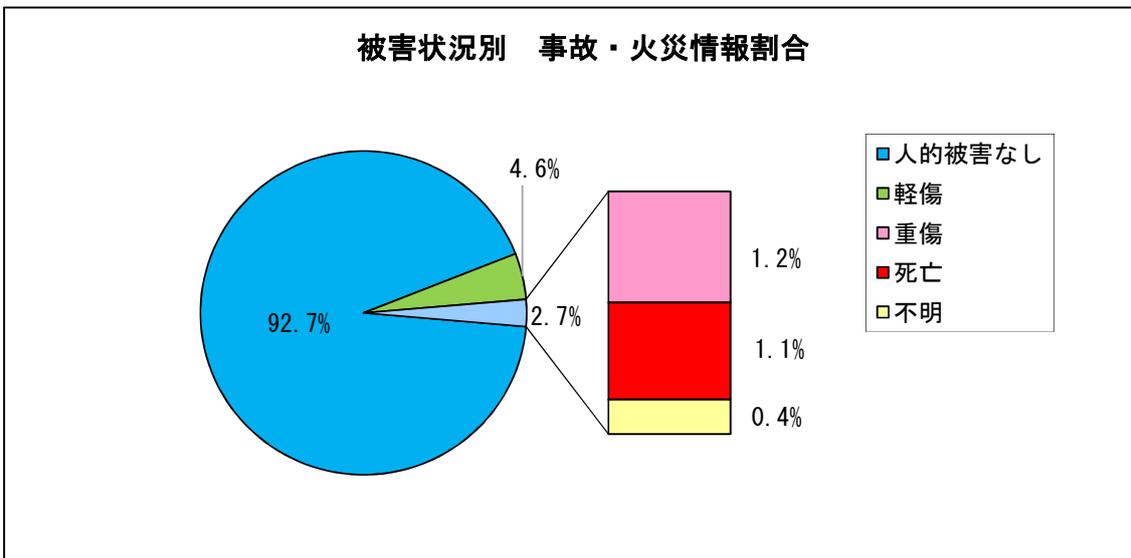
5-B. 総走行距離・装置別 火災情報件数



(件)(%)

装置別	総走行距離別			
	1~10,000km	10,001~50,000km	50,001~100,000km	100,001km以上
原動機	3 12.5%	9 9.8%	23 25.0%	110 29.6%
電気装置	5 20.8%	23 25.0%	19 20.7%	41 11.1%
制動装置	4 16.7%	2 2.2%	1 1.1%	41 11.1%
走行装置	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	45 12.1%
保安・灯火装置	0 0.0%	12 13.0%	15 16.3%	14 3.8%
燃料装置	1 4.2%	4 4.3%	3 3.3%	9 2.4%
動力伝達装置	0 0.0%	4 4.3%	1 1.1%	10 2.7%
操縦装置	0 0.0%	2 2.2%	2 2.2%	3 0.8%
緩衝装置	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%
その他の装置	11 45.8%	36 39.1%	28 30.4%	97 26.1%
合計	24 100.0%	92 100.0%	92 100.0%	371 100.0%

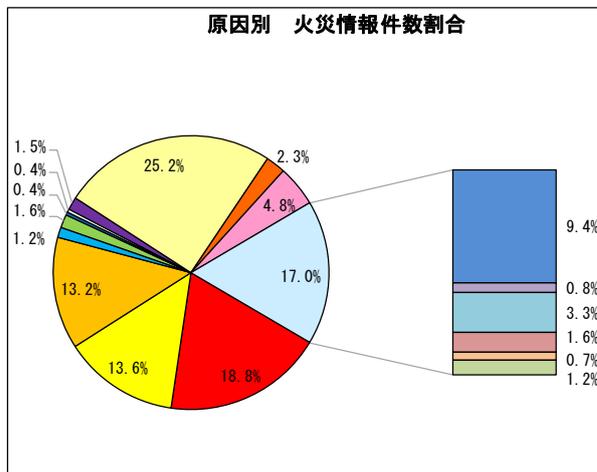
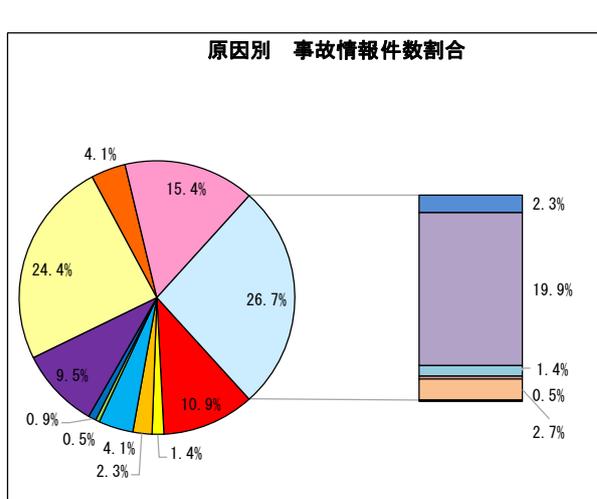
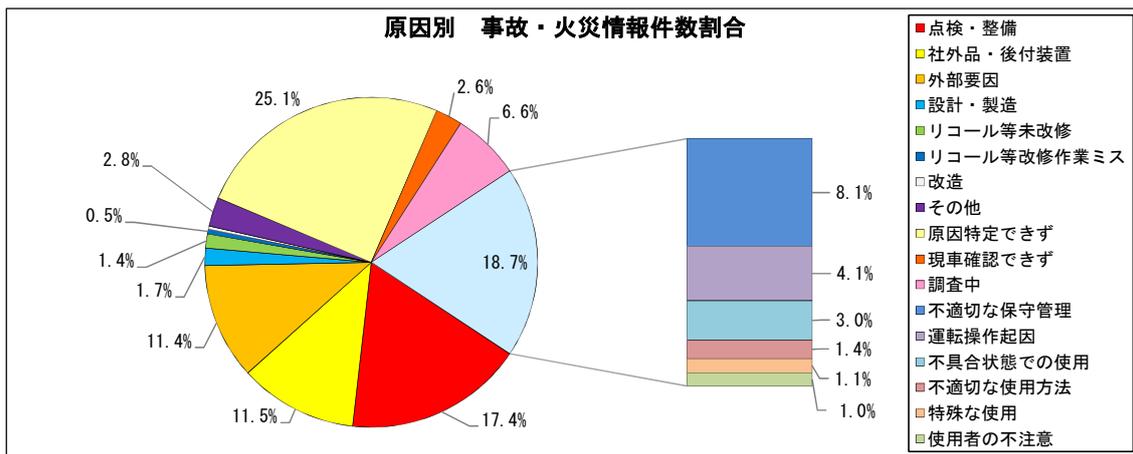
6. 被害状況別事故・火災情報件数及び割合は、人的被害無しが1,206件(92.7%)と最も多く、次いで軽傷が60件(4.6%)、重傷が16件(2.7%)の順となっている。事象別にみると、人的被害無しの割合は、事故情報割合では65.2%であるのに対し火災情報割合では98.5%となっており、事故に比べ、火災により死傷に至る割合は少なくなっている。



(件)

被害状況別 事象別	人的被害 無し	軽傷	重傷	死亡	不明	合計
事故	144	50	14	9	4	221
火災	1,062	10	2	5	1	1,080
合計	1,206	60	16	14	5	1,301

7. 原因別事故・火災情報件数及び割合は、点検・整備が 227 件(17.4%)と最も多く、次いで社外品・後付装置が 150 件(11.5%)、外部要因が 148 件(11.4%)の順となっている。また、特殊な使用等に分類される適切に使用することや保守管理を行うことにより防ぐことが可能と思われる不具合情報に係わる事故・火災情報件数は 243 件(18.7%)となっており、原因が特定できたものの中では 28.4%を占めている。事象別にみると、事故情報件数については運転操作起因によるものが 44 件(19.9%)と最も多く、次いで点検・整備によるものが 24 件(15.4%)となっている。火災情報件数については点検・整備によるものが 203 件(18.8%)と最も多く、次いで社外品・後付装置によるものが 147 件(13.6%)、外部要因によるものが 143 件(13.2%)の順となっている。



原因別		事象別		
		事故	火災	合計
点検・整備		24	203	227
社外品・後付装置		3	147	150
外部要因		5	143	148
設計・製造		9	13	22
リコール等未改修		1	17	18
リコール等改修作業ミス		2	4	6
改造		0	4	4
その他		21	16	37
原因特定できず		54	272	326
現車確認できず		9	25	34
調査中		34	52	86
特殊な使用等	不適切な保守管理	5	101	106
	運転操作起因	44	9	53
	不具合状態での使用	3	36	39
	不適切な使用方法	1	17	18
	特殊な使用	6	8	14
	使用者の不注意	0	13	13
合計		221	1,080	1,301